第２６回エネルギー政策検討会会議議事録（要約）

１　会議の概要

(1) 日　時：平成１５年４月１４日（月）午前９時４２分から１０時５分

(2) 場　所：福島県庁特別室（福島市杉妻町２－１６　県庁本庁舎２階）

(3) 次　第

ア　開　会

イ　議　事（報告）

○「福島県エネルギー政策検討会設置要綱」の一部改正について

○エネルギー政策検討会「中間とりまとめ」後の国等の動きについて

○その他

ウ　閉　会

２　開　会

【司　会】

○　議題について、一括して事務局から説明する。

【事務局】

（資料に基づき説明）

【司　会】

○　只今の説明について何か御意見等があれば述べていただきたい。

○　先程の話にあったように、前回以降の国の動き等を中心に状況の説明を受けたのは、共通の認識を高めるのが目的である。

○　例えば、今までタブー視されていた問題が堰を切ったように出てきた印象や、今まででは考えられない本音の議論が少しずつ出てきていると感じると思う。

○　「中間とりまとめ」が一つの契機となり、このような形になっているのではないか。

【検討会メンバー】

○　「中間とりまとめ」の後にこのような動きがでてきている。この動きがこれからどのように展開していくのか、その辺を十分注意していきたい。

○　また、原子力委員会での意見については、意見聴取の段階であり、これをどのようにしていくのかよく見極めなければならない。

○　４月１日から原子力等立地地域振興事務所を開設した。特措法の指定も受けており、これに基づく振興計画をきちんと作って、しっかりとやっていきたい。

【検討会メンバー】

○　今後の進め方と絡むが、「中間とりまとめ」の内容で少し誤解される傾向にあるのが、「核燃料サイクルのあり方の議論」と「原子力発電所の必要性の議論」である。

○　両者が入り混じりになっており、我々は「原点に返って見直す」ということは「核燃料サイクル」の部分にスポットを当てて話しているが、それが「原子力発電所そのものについてどうか」という議論に誤解される傾向がある。

○　「原子力発電との共生をしっかり行っている本県」と、「核燃料サイクルについて国のエネルギー政策の中で、全体的に再度原点に返りきちんと見直すべきとの議論の提起」

を峻別して、誤解が無いように今後とも、ＰＲしていく必要がある。

【検討会メンバー】

○　この『「中間とりまとめ」に対する主な意見についての県の考え方』について、インターネット等で出したことに対しての反応はあるのか。

【事務局】

○　３月２８日にインターネット等で公開したが、現在のところ目立った反応等はない。

【検討会メンバー】

○　「中間とりまとめ」において、「自由化と原子力発電」についても取りまとめた。そのことについては電気事業者、電事連、或いは各経済団体においても、「原子力発電については自由化の中でやっていけない」という意見が出始め、国がそれを受けて「自由化と原子力発電」について何か一定の流れが出来つつある感じがする。

○　今後どうなるかは分からないが、自由化の中で原子力発電について、特例を認めるような流れが大筋ではまとまってきている印象を受ける。

○　もう一つの大きな核である核燃料サイクルについては、流れがまだ見えていない。あちこちで発言はあるが、自由化ほどの流れ、道筋がまだ着いていない感じを受ける。

【司　会】

○　自由化の問題や使用済み燃料の問題について、二、三年前にはこういう議論が出てくることは考えられなかった。

○　資料にあるように、頑な姿勢は勿論あるが、少しずつ今までタブー視されてきた部分が、徐々に雪解けの如く現れて来ている感がある。

【検討会メンバー】

○　我々が原子力担当の役所の役人であるならば、今まで掲げてきた政策というものを急に変えるわけにはいかない。これをやったならば、ストップしてしまう。

○　議論が徐々に深まり、ある点に達したときにガラッと変わる。そういう意味では若干の時間がかかるだろう。

○　そういう意味では、この議論を深めながら国の動きをよく見守っていくことが今は肝心ではないかという感じがする。

【司　会】

○　今後も国民的な議論を更に幅広く喚起するとともに、国の動きを注意深く見守っていく必要がある。このような方向で今後とも進めていきたいと思う。

○　これを持って本日のエネルギー政策検討会を終了する。